

繁多川公民館



利 用 施 設 の ご 案 内



《 2 階 》



《 3 階 》

部 屋 名	収 容 人 数	用 途 (備 品)
ホール	200名程度	講演会・研修会・発表会(ピアノ・イス・テーブル)
和 室	30名程度	茶道・生け花・和裁・着付け・舞踊(テーブル・姿見)
ロビー		談話・学習スペース(イス・テーブル)
研修室1	40名程度	研修会・講座・会議(イス・テーブル)
研修室2	25名程度	研修会・講座・会議(イス・テーブル)
実習室	25名程度	調理実習・研修会・講座・会議 (調理用器具・イス・テーブル)

I 繁多川公民館の沿革

「那覇市社会教育施設整備計画」（平成5年2月）に基づいて、那覇市で7番目の公民館として計画された繁多川公民館は、繁多川・真地・識名地区の生涯学習の拠点として、平成15年12月22日に建設が着手され、翌年の平成16年11月25日に竣工した。

施設の設計にあたっては、地域の方々の参加により開催されたワークショップの結果や、建設準備委員会からの要望を元に検討した結果、施設全体を段差のないつくりとし、広いエレベーターや階段対応のリフトを設置したユニバーサルデザインを採り入れた施設になっている。

周辺の環境整備に関しては、建設前の既存の木々を可能な限り残してみどりを確保するとともに、施設前や屋上に芝生の広場、屋上菜園等を設け施設の緑化に努めている。

また、大きな窓で採光を図るほか、屋上に降った雨を地下のタンクに貯水し、施設内のトイレ洗浄や散水に活用する等、環境に配慮した設計がなされている。

- 平成17年 1月5日 社会教育・スポーツ課 開館準備グループ（主査 田島壽博、主査 名渡山桂子、主査 平良尚子、主任主事 上江洲寛）で開館準備を進めるなか、業務の一部をNPO法人なはまちづくりネット（代表 田端温代）に委託された。
- 2月10日 館長 田島壽博が発令された。
- 4月 1日 那覇市繁多川公民館が発足された。
- 4月 2日 繁多川公民館及び図書館の開館式が行われ、利用団体・サークルへの公民館施設の提供が開始された。
- 6月 7日 開館記念講座「琉球漢詩とゆんたく話と詩吟」が開催された。
- 平成18年4月13日 繁多川公民館利用団体連絡協議会設立総会が開催された。
- 11月25日 第1回繁多川公民館まつり前夜祭（ダンスパーティー）が開催された。
- 11月26日 第1回繁多川公民館まつり開催。舞台発表や作品展示、活動紹介などが行われた。
- 平成19年4月 1日 館長 田島壽博が配置替えにより、館長 宇根克が発令された。
- 11月24日 11月24日、25日の両日にわたって、第2回繁多川公民館まつりが開催された。
- 平成20年4月 1日 委託期間の満了に伴う新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人なはまちづくりネット（代表 大城喜江子）への一部業務委託を継続することになった。
- 平成22年11月2日 第63回優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける。
- 平成23年 4月1日 館長 宇根克が配置替えにより、館長 新垣絹代が発令された。
- 平成23年 4月1日 委託期間の満了に伴う新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人なはまちづくりネット（代表 大城喜江子）への一部業務委託を継続することになった。
- 平成25年3月28日 第14回「朝日のびのび教育賞」を受賞する。
- 4月 1日 館長 新垣絹代が退職により、館長 高吉情次が発令された。
- 平成26年4月 1日 委託期間の満了に伴う新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人1万人井戸端会議（代表 南信乃介）へ一部業務委託をすることになった。
- 平成27年4月 1日 指定管理者導入により、新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人1万人井戸端会議（代表 南信乃介）への指定管理者が決定する。
- 令和 2年2月14日 第72回優良公民館として文部科学大臣表彰と相互評価特別賞を受ける。
- 令和 3年1月 吉日 第8回「全国公民館報コンクール 銀賞」を受賞する。

Ⅱ 令和2年度繁多川公民館事業目次

1	学習風景（写真）	89
2	成人一般対象事業	
〔1〕	成人講座	
	◇貴重種キバナノヒメユリ保全プロジェクト	90
〔2〕	健康講座	
	◇ボディートーク「身体と心と会話して身体をほぐす方法を知ろう」	91
	◇繁多川歴史まーいスタンプラリーウォーク	92
3	高齢者対象事業	
〔1〕	高齢者学級	
	◇コロナ禍での孤立支援サポート	93
4	青少年対象事業	
〔1〕	少年教室	
	◇秋休み！特別教室	94
〔2〕	青年講座	
	◇公民館でジュニアボランティア！	95
〔3〕	親子ふれあい教室	
	◇はんたがわ親子ぼうさいデイキャンプ	96
5	家庭教育事業	
〔1〕	家庭教育学級	
	◇子育て応援ステーション「おやこそだて園」	97
	◇育児あるあるトーク講座 「幼児期と向き合う、わが家のトリセツワーク」	98
6	その他の事業	
〔1〕	地域連携事業	
	◇あたいぐわプロジェクト	99
	◇真和志地区地域活性委員会	100
	◇はんたがわお正月豆遊び	101
	◇識名園友遊会	102
	◇ちいさなロビー展 「シェアマーケット」	103
	「ロビーリノベーションプロジェクト2020」	104
	◇いどばたごはん会	105
〔2〕	学社融合事業	
	◇職場体験受入れ&お仕事先生プロジェクト	106
〔3〕	プロポーザル事業	
	◇コミュニティー支援 『地域計画 教育部』 放課後子ども総合プラン会議	107
	しきな小放課後子ども教室	108
	プレーパーク	109
	◇コミュニティー支援 『地域計画 福祉・防災部』 住んで良かった繁多川大作戦	110
	◇コミュニティー支援 『グローバル公民館』 エジプトと沖縄でグローバルミーティング	111
7	公民館まつり	112
8	新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み中止になった事業	113

1 学習風景



健康講座
「繁多川歴史まーい スタンプラリーウォーク」



少年教室
「秋休み特別教室」



親子ふれあい教室
「はんたがわ親子ぼうさいデイキャンプ」



家庭教育学級
「子育て応援ステーション おやかそだて園」



地域連携事業
「ちいさなロビー展」
～シェアマーケット～



プロポーザル事業
「コミュニティ支援 地域計画 教育部」
～プレーパーク～

2 成人一般対象事業

〔1〕成人講座

貴重種キバナノヒメユリ保全プロジェクト

趣 旨：「大石公園」、「キバナノヒメユリ」という身近な自然を活かしながら自然観察や実習を通して自然保全に努め、コミュニケーション・連携の活発化から住民参画や市民性教育を推進する。その中で持続可能な経済活動を考える材料とし、地域の誇れる花として活性化につなげる。

期 間：令和2年6月～12月28日（月）

時 間：学習プログラムにて異なる（下記参照）

場 所：繁多川公民館及びその周辺

対 象：キバナノヒメユリ里親／地域住民

受 講 料：無料 定員：なし 参加延べ人数：14人

連 携：那覇市環境保全課、那覇市文化財課

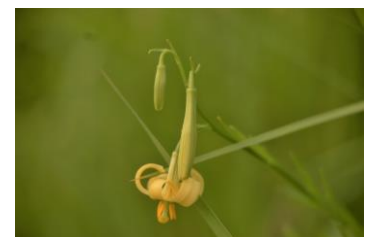
★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	連 携	人 数
6月～9月	自生地開花調査	那覇市環境保全課 那覇市文化財課	3人
8月～通年	キバナノヒメユリポストカード販売 ※ポストカードの売上金はキバナノヒメユリ保全活動に活用される。	キバナノヒメユリ里親	—
新型コロナウイルスにより開催中止	太陽とキバナノヒメユリの夕べ	—	—
12月25日（金） 12月28日（月）	キバナノヒメユリ自生地 草刈り・抜根	那覇市環境保全課 那覇市文化財課 ジュニアボランティア等	11人

【まとめ】

今年度は毎年8月頃に開催している、里親の方が育てたキバナノヒメユリを持ち寄り、地域の皆さんと交流をする「太陽とキバナノヒメユリの夕べ」がコロナの影響により中止となった。残念ではあったが、広報誌にて里親募集の記事を掲載したところ、7名の応募があった。

コロナにより自宅で過ごす時間が長くなったため育ててみたいとの声もありこのご時世ならではのニーズの高まりを感じた。一方で対外的な活動は難しく、近隣小学校等での出前講座は実施できなかったので次年度は様子を見ながら実施していきたい。また、今年度初めて里親の方が撮影した自生地のキバナノヒメユリの写真をポストカードにして販売を行った。地域の方からの反応もよく、売上金はキバナノヒメユリの保全活動へ活用されるため、地域で守り育てるという循環の新たな一歩を踏み出した。



《里親による自生地の撮影》



《里親の方のキバナが開花》



《草刈り作業の様子》



《ポストカード販売》

〔2〕健康講座

ボディートーク「身体と心と会話して身体をほぐす方法を知ろう」

趣 旨：新型コロナウイルス禍における日常生活が壊される中、温かい息と手のぬくもりでボディートークの身体ほぐしをして五感がよく働くようになり免疫力・自然治癒力が高くなり生命を輝かせながら生きるための心と身体を取り戻す。

期 日：令和3年1月15日（金）、3月5日（金）、3月12日（金）（全3回）

時 間：19：00～21：00

場 所：繁多川公民館 研修室

対 象：那覇市在住・在勤

受 講 料：無料（資料代、保険代50円徴収）

定 員：20人（うち受講決定数10人） 参加延べ人数：27人

講 師：山崎 新（米国 IBA ボディートーク施術士）

★★ 学習プログラム ★★

実 施 日	内 容	参加人数
令和3年 1月15日（金）	わたしたちの身体について 「ボディートークについての講話／施術体験」	10人
3月 5日（金）	わたしたちの心について 「自然治癒力を生み出す体内のコミュニケーションについて」	9人
3月12日（金）	心身の不思議 「心と身体つながり、自然治癒力を高めるための施術体験」	8人

【参加者の声】

- ・健康に関する講座（心と身体）があればまた参加したいです。
- ・実際にタップして体感できてとてもよかった。
- ・健康に関する講座や漢方について学びたい。
- ・身体や心についてのいくつかの本の紹介もあり手に取って見ることで勉強になった。

【まとめ】

1回目（1/15）を開講したにも関わらず、新型コロナウイルス緊急事態宣言発令により休館となり、2回目以降を3月に実施することになったが受講生のみなさんに再開の連絡をすると「参加します。」「連絡ありがとうございます。再開を楽しみにしていました。」とすぐ再開を待ち望んでいた。新型コロナウイルスで事業が分断されることがあっても何らかの形で完結させる必要性を感じた。

「心の健康（自分らしく生きること）」「身体の健康（痛みや疲労に気づきトリートメントしていく。無理をしないこと＝人に頼む／気軽に相談する。能力を発揮できること）」について講師自身の体験談や多方面の著書を引用して解説してくださりとて見聞が広がる時間となった。

施術体験で今まで手が肘より上にあがらなかった方が施術後、まっすぐ天井の方まで上がったことには受講生全員歓声を上げてみんなで喜びあった。



《講話風景》



《ボディートーク施術風景》



繁多川歴史まーいスタンプラリーウォーク

趣 旨：繁多川字指定文化財を１０カ所、クイズに答えてスタンプラリー形式で散策し、地域の文化財に触れながら健康増進に努める。

期 日：令和３年３月２１日（日）

時 間：１０：００～１２：００

場 所：繁多川地区

対 象：那覇市在住・在勤・在学及び関心のある方

受 講 料：無料（但し、保険料・材料費１００円は自己負担）

定 員：３０人

申込人数：３２人（うち受講決定人数２４人）

参加延べ人数：２４人

協 力：繁多川自治会



《ルート説明》



《クイズに答えてスタンプ押印》



《普段は入れない井泉の見学》



《答え合わせ後のご褒美と地域マップ資料》



【参加者の声】

- ・看板の説明の中にクイズのヒントが書いてあって楽しく、地域の事が解った。
- ・いつもとは違う場所を知れて、沢山のひとと協力して楽しかった。
- ・探しても見落として、問題の答えを見つけるのが難しかった。
- ・駆け足だった為、時間がある日にゆっくりと回ってみたいと思います。
- ・手長エビ（たながー）を見れてよかったです。
- ・地図をみて、ポイントを見つけるのが探検みたいで、子ども達も楽しそうでした。

【まとめ】

- ・繁多川自治会協力の元、普段は入れない井泉を開放し、生き物の生体も一緒に学ぶ事ができて良かった。
- ・まだまだ沢山の字指定文化財があるので、無理なく楽しみながら散策し、健康意欲を高めてほしい。
- ・繁多川地域だけではなく、他自治会の文化財も発信できるようにしたい。

3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

コロナ禍での孤立支援サポート

趣 旨：コロナ禍で対面での活動が制限される中、家族や友人、地域住民のつながりを感じられる地域社会のために高齢者の情報格差の解消と支援団体の研修会を開催し高齢者の孤立を防ぐ一助とする。

期 間：令和2年10月7日（水）～ 令和3年3月31日（水）

時 間：平日の9時～17時

場 所：繁多川公民館事務所窓口、3階ホール

対 象：那覇市在住・在勤及び関心のある方

受 講 料：無料 定員：なし

参加延べ人数：43人（視聴回数481回）



★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	講 師 等
令和2年 10月7日(水) 13:15 ～ 14:45	オンライン配信・対面講座 「高齢者が安心して暮らし続ける地域づくり -withコロナ期の集うこと、学ぶこと、支 え合うこと-」 ① 講師による講演 ② 対談 南信乃介 那覇市繁多川公民館館長 ③ 質疑応答 会場参加者、チャット内より抜粋	高山 義浩 氏 (沖縄県立中部病院感染症内科医師) YouTube視聴 481回 会場参加 30名 協力：全国公民館連合会
10月8日(木) ～ 令和3年 3月31日(水)	スマホ操作サポート ・LINEの使い方 ・アプリの利用について等	公民館スタッフによる簡易なサポート 延べ利用者数：13人

【まとめ】

コロナ禍での外出自粛が繰り返される中、感染リスクを考慮しつつ、孤立しがちな高齢者をどう地域で支え、見守るのか沖縄県立中部病院感染症内科医師の高山氏と共に考える場を公民館講座として企画した。高山氏からは「開催時期、開催場所での流行状況を踏まえたうえで臨機応変に実施し、失敗から学ぶことが重要。」と話し、活動する方向性を地域支援団体の方々と共有した。ZoomやYouTubeでのオンライン視聴も実施し、県内外の多くの方に届ける事ができた。

スマホ操作サポートは公民館の利用者を中心に、相談に応じた。多くは友達や家族との連絡をSNSでしたい、アプリを入れたい、データの保存の仕方などの相談が多かった。相談の際に、公民館LINEや包括支援センター繁多川と共同制作しているYouTube番組も登録していただくことに繋がり、必要な情報を適切に提供できる体制づくりにも繋がった。

令和2年度那覇市繁多川公民館 高齢者学級

公民館スタッフがマンツーマンでお手伝い♪

は い い が い

スマホ操作サポート

予約制
初心者むけ

「最近スマホデビューしたのよ」
「スマホを持っているけど電話とメールしか使ってないな…」
そんな方はいらっしゃいませんか？
スマホの操作でちょっとした疑問や困りごとがありましたら、公民館に
持ってきてください。スタッフが一緒に操作しながら、使い方を覚える
お手伝いをいたします！

zoom ?
LINE ?
f ?
YouTube ?

「孫とビデオ
通話できる
ようになって
嬉しいわ」

「ちむぐく
るに乾杯」の
Youtubeよう
く見れたさ～

日時
10月1日（木）～当番の間
9:00～17:00の間で30分間
（予約制）

スマホの接続
Iphone、Android・・・
なんでもOKです！

受講料
無料

お問合せ
那覇市繁多川公民館
那覇市繁多川4-1-38
☎098-917-3448

4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

秋休み！特別教室

趣 旨：児童生徒を対象に夏休み期間中に様々なプログラム体験を準備し創造性豊かな人間形成をめざして集団学習・異世代交流の機会を提供する。沖縄県立沖縄工業高等学校と連携し、工業高校ならではの体験プログラムを提供する。

期 間：令和2年10月18日（日）～10月19日（月）※日時については下記の表参照

場 所：那覇市繁多川公民館及びその周辺、沖縄県立沖縄工業高等学校

時 間：学習プログラムにて異なる（下記参照）

対 象：那覇市在住・在勤・在学及び関心のある方

受 講 料：無料（各体験ごとの保険料・材料費は自己負担）

定 員：学習プログラムにて異なる（下記参照） 参加延べ人数：12人

協 力：那覇市繁多川公民館 利用団体連絡会／繁多川すぐりむん／楚南 光子 先生（染物）
沖縄県立沖縄工業高等学校

★★ 学習プログラム ★★

体 験 内 容	指導サークル	期 日	保険代 材料代	定 員 (参加延べ人数)
染物教室	楚南光子先生 (繁多川すぐりむん)	10月18日（日）～19日（月） 10：00～13：00（全2回）	300円	7人 (12人)
秋の星の 観察会	新型コロナの影響で開催中止			
ペタンクで 遊ぼう	新型コロナの影響で開催中止			
火おこし体験	新型コロナの影響で開催中止			
工業高校体験 プログラム	新型コロナの影響で開催中止			



《自由に模様を制作》



《くちなしの実を使つての草木染》



《参加者全員で集合写真》

【参加者の声】

最初はボタンや紐の意味が解らなかったけど、染めてみると綺麗な柄になっていたのでビックリしました。勧められた時は楽しいのかな？と思っていたけど、やってみたら楽しかったので良かったです。また、参加したいと思います。

【まとめ】

新型コロナの影響で夏休み開催を秋休み開催へ変更したが、4つのプログラムが開催中止となった。唯一開催できた染物教室は新型コロナ拡大感染予防対策を行い実施する事が出来た。

〔2〕青年講座

公民館でジュニアボランティア！

趣 旨：青年を対象に地域や異年齢間と関わりを持つきっかけとする。また、ボランティアを行うことで、コミュニケーション能力の向上、豊富な知識の取得などを目指すとともに、個人の成長や将来社会に出たときの自信に繋げるきっかけにし、地域の担い手を育成する。

期 間：令和2年10月3日（土）～ 令和3年3月21日（日）

時 間：イベントや講座により変動有

場 所：那覇市繁多川公民館とその周辺

対 象：真和志地域の中学校及び高校

受 講 料：無料

定 員：なし 参加延べ人数：25人

参 加 校：石田中学校／松城中学校／寄宮中学校／開邦中学校／首里高等学校

期 間	内 容	参加人数
令和2年 10月 3日（土）	「プレーパーク」へのボランティア参加	3人
10月18日（日）	秋休み特別教室「染め物教室」へのボランティア参加	2人
10月19日（月）	秋休み特別教室「染め物教室」へのボランティア参加	3人
11月14日（土）	「プレーパーク」へのボランティア参加	4人
11月15日（日）	「出張！シェアマーケット in 県営高層住宅」へのボランティア参加	6人
令和3年 1月 9日（土）	「プレーパーク」へのボランティア参加	2人
3月13日（土）	「出張プレーパーク in 識名児童館」へのボランティア参加	1人
3月21日（日）	「繁多川歴史まーい スタンプラリーウォーク」へのボランティア参加	4人

【参加者の声】

「いろいろな人と交流できてよかった」「学校では体験できないような活動に参加することができてよかった」「自分の地域の歴史を知るいい経験ができた」等の声が上がっている。

【まとめ】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域のイベントや公民館講座が減少し、活動場所が少なかった。

登録者も少なかったが、少ないながらも意欲的に参加している生徒も見受けられた。

次年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続くことが想定される中で、どのようなカタチで活動していくのかを考えていきたい。



《染め物教室》



《プレーパーク》

〔3〕 親子ふれあい教室

はんだがわ親子ぼうさいデイキャンプ

趣 旨：いつか来るかもしれない大地震や毎年やってくる台風などの災害。その被害を最小限に留めるためには日ごろからの防災意識や備えが大きな鍵を握る。被災経験の乏しい若い方や子どもたちの防災意識を高めるため、まずは楽しみながら地域の危険箇所や避難について知ってもらう。

期 間：令和2年10月18日（日） 時間：9：00～15：00

場 所：那覇市繁多川公民館ホール、三宝邸

対 象：小中学生の児童とその親、興味関心のある方

受講料：無料

（但し、保険代・材料費 100円は実費負担）

定 員：親子5～10組、総勢20人まで

（うち受講決定数15人）

参加延べ人数：15人

講 師：稲垣 暁 氏（防災士）

協 力：琉球大学 清水ゼミ



《ブロック塀の危険を知る》



《鉄筋調査を体験》

★★ 学習プログラム ★★

9：00 稲垣先生の講話「身近な暮らしを生かす繁多川防災」

10：15 街探検（ブロック塀の危険について学ぶ・避難所までの道中の気づきをまとめる）

12：05 地域の避難所「三宝邸」についてのお話・まちの避難救助口体験
防災食で昼ごはん

14：30 ふりかえりの会・まとめ



《稲垣先生のおはなし》



《発見をシェア》



《防災クッキング》



《家族単位で発表》

【参加者の声】

（大 人）・防災という視点で自分が住む町を見たことがなかったので、新しい気づきがあって貴重な経験が得られました。

・みなさん人柄がよく、のんびりリラックスして過ごすことができました。

（子ども）・ツナ缶ランタンを作って12分も燃えた所がおもしろかった。

・役に立つ事も知れた。危険な所も知れて楽しかった。

【まとめ】

防災を身近に、自分事として感じてほしいという思いで、さまざまな体験を盛り込んで講座を組み立てた。参加した親子は、講話で聞いたことを、実際の町に出て「歩いて探し、自分の目で確かめ、考え、実感する」時間を親子で共有していた。町歩きでも、防災クッキングでも、親子で協力しあう姿が見られ、今後も家庭で防災の視点を持ち続けることにつながったのではと期待させる反応だった。また、琉球大学の学生や、繁多川地域の防災に取り組んでいる方々の参加協力もあり、複合的な交流が生まれたのもよかった。

課題としては、1回限りの単発の講座となってしまう、継続的な学びや人のつながりに発展させるところまで至らなかったことが挙げられる。今後の事業でこの点を補強していきたい。

5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

子育て応援ステーション「おやこそだて園」

趣 旨：乳幼児の子どもと親を対象に地域の保育園と連携して公民館で出張保育を行い、公民館が子育て応援ステーションとして子育ての相談窓口、親子で楽しめるプログラムの提供等、待機児童の親子や孤立しがちな子育て世代の居場所として、安心して子育てできる地域の拠点を目指す。

期 間：令和2年10月 6日（火）～ 令和3年3月15日（月）

時 間：10:00～12:00

場 所：繁多川公民館 和室

対 象：那覇市在住・在勤の親子

受 講 料：無料 定員：5組10名

参加延べ人数：339人

（定員を超えた際には部屋を広げて対応）

協 力：識名さつきこども園、長田保育園
いしだ丘保育園、童夢認定こども園



《 活 動 風 景 》

実 施 日		内 容	担 当 園	参加人数
令和2年 10月	6日（火）	おもちゃ作り、歌あそびなど	識名さつき認定こども園	6人
	13日（火）	おもちゃ作り、布あそび、歌など	長田保育園	6人
	19日（月）	ハロウィン製作、読み聞かせなど	いしだ丘保育園	10人
	27日（火）	ペープサート、読み聞かせなど	童夢認定こども園	15人
11月	2日（月）	おもちゃ作り、歌、おどりなど	識名さつき認定こども園	10人
	12日（木）	リース作り、手あそび、リトミック	長田保育園	12人
	16日（月）	おもちゃ作り、読み聞かせ、歌など	いしだ丘保育園	8人
	24日（火）	エプロンシアター、マット遊びなど	童夢認定こども園	18人
12月	3日（木）	読み聞かせ、踊り、歌、手遊びなど	識名さつき認定こども園	18人
	10日（木）	クリスマスツリー作り、紙遊びなど	長田保育園	6人
	21日（月）	おもちゃ作り、絵本読み聞かせなど	いしだ丘保育園	8人
	22日（火）	クリスマス会、エプロンシアターなど	童夢認定こども園	10人
令和3年 1月	5日（火）	新聞紙あそび、歌あそびなど	識名さつき認定こども園	8人
	12日（火）	エプロンシアター、獅子舞、歌など	長田保育園	16人
	18日（月）	おもちゃ作り、読み聞かせ、歌など	いしだ丘保育園	8人
	26日（火）			10人
2月	4日（木）	おもちゃ遊び、読み聞かせ、自由遊びなど	緊急事態宣言により出張保育はお休み、お部屋を開放	8人
	8日（月）			8人
	15日（月）			10人
	22日（月）			8人
3月	1日（月）	ひなまつり製作、踊り、歌など	識名さつき認定こども園	12人
	8日（月）	マット遊び、手遊び、読み聞かせなど	長田保育園	22人
	15日（月）	おもちゃ作り、読み聞かせ、歌など	いしだ丘保育園	10人
	28日（日）	おやこそだて園参加者イベント	保護者	92人

【参加者の声】

「コロナ禍でもこうして親子で参加できる場所があってありがたい」、「いつも子どもと1日を過ごすのに困っているのでこのような場所があると嬉しいし、リフレッシュになっている」、「普段家ではできない遊びに子どもも楽しそう」、「保育士さんがいてくれて子育ての話や相談もできるのが助かる」等の声があった。

【まとめ】

今年度は、これまで開催していた出張保育「いしだエンジョイ育児(月1回)」を地域の保育園にご協力いただき、4つの保育園で毎週開催することができた。コロナの影響により10月からの開催となったが、毎週多くの参加者があり、コロナ禍でも孤立しがちな親子の居場所として求められていることを強く感じた。次年度以降も継続して開催できるようにしていきたい。

育児あるあるトーク講座「幼児期と向き合う我が家のトリセツワーク」

趣 旨：コロナ禍における人との関係性が遮断されそうな中、とりわけ子育ての孤立化が深刻化する社会状況を少しでも好転させる目的で開催する。母親の悩みを共有しあい、解決の糸口をワークショップの手法からヒントを得て、日常生活に生かすことができるようになるとともに価値観を共有できる「ママ友」の出会いが生まれ、子育て世代の公民館利用の促進に繋げる。

期 日：令和2年10月22日（木）、29日（木）、11月5日（木）、12月3日（木）（全4回）

時 間：10:00～12:00 **場所：**繁多川公民館 研修室、ホール、和室（託児室）

対 象：3歳児～5歳児を持つ母親（3回連続受講者優先）

受 講 料：無料（資料代、保険代350円は実費負担）

定 員：12人（うち受講決定数9人） **参加延べ人数：**35人

講 師：土屋 由美子（子育てファシリテーター）

★★ 学習プログラム ★★

実 施 日	内 容	参加人数
令和2年 10月22日（木）	ワークショップ 自己紹介と仲間づくり	6人
10月29日（木）	ワークショップ 課題解決の糸口さがし	9人
11月 5日（木）	ワークショップ 課題解決の手法を実践した感想の共有と次へのアクション プランづくり	9人
12月 3日（木）	情報交換会	11人

【参加者の声】

- ・企画ありがとうございました。子育てが楽になった気がします。
- ・みんな同じことで悩んでいることを知ってほっとした。
- ・託児つきで久しぶりに大人のひととゆっくり話ができて考えることができました。

【まとめ】

新型コロナウイルス緊急事態宣言のため4、5、8月と公民館が休館になる中、日常が奪われ、公園の遊具使用禁止や外で遊ぶことも許されず、保育園等の送迎時における保護者同志の何気ない会話さえ出来なくなったり、「3密を避ける」「ステイホーム」「テレワーク」「マスク着用・手洗い・アルコール消毒」等の新しい生活スタイルの強要を求められる中、普段でも「子育て中の母親の生きづらさ」がある現代社会におけるストレスは相

当のものと感じる報道や子育て世代の生の声を聞く中、緊急事態宣言が解除され「今しかない！」と実施する。受講型ではなく、ワークショップ形式で意見交換することで、悩みを共有し、課題解決の手法（どうしたらいいのかわからなくなった時の思考回路のより良い修正法や具体的な解決策）を参加者みんなで共有し、「ママ友」ができたり、公民館が身近になって、頻繁に公民館のおやこそでて園やプレーパーク、自主上映会「ママをやめてもいいですか!？」に家族で参加する姿が見られた。

講師の都合で第3回を「テレワーク講義」になったが、2回対面でワークショップを実施していたので参加者が主体的にワークショップを運営し、休憩時間には参加者が自分のお気に入りの本の紹介をする「大人のための読み聞かせタイム」もあった。



《オンラインワークショップ》

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

あたいぐわープロジェクト

趣 旨：沖縄在来種の青ヒグーを子どもが育て、「昔の繁多川豆腐」を再現する中で、食文化の継承（味と製造過程）とさらなる地域の活性化に寄与する。

期 間：令和2年6月8日（月）～令和3年3月15日（月）

時 間：学習プログラムにて異なる（下記参照）

場 所：那覇市繁多川公民館及び各小学校

対 象：識名小学校／真地小学校／上間小学校

受 講 料：無料

定 員：なし 参加延べ人数：374人

共 催：繁多川自治会／上間自治会／かりゆし友の会／あたいぐわープロジェクト

★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	連携先	人 数
令和2年 6月 8日（月） 13:55～14:40	識名小学校3学年総合学習 オリエンテーション	識名小学校3学年	114人
6月19日（金） 9:00～11:00	識名小学校3学年畑づくり	あたいぐわー プロジェクト	9人
7月 8日（火） 9:00～11:00	識名小学校3学年種まき	あたいぐわー プロジェクト	116人
令和3年 2月18日（木） 13:50～14:40 19日（金） 13:30～15:30	識名小学校3学年 プランターに種まき	あたいぐわー プロジェクト	115人
3月15日（月） 9:00～12:00	かりゆし友の会引継ぎ式	かりゆし友の会	20人
※識名小学校は新型コロナの影響により、豆腐作りは中止となりました。 ※上間小学校及び真地小学校は新型コロナの影響により、総合学習は中止となりました。			

【まとめ】

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各小学校での豆腐づくりを開催することが出来なかった。生徒や先生たちからは「残念だ」「豆腐を作りたいかった」などの声が上がった。コロナ禍でもできることをやろうと畑に植えた大豆も植えた時期が悪く、うまく実らず収穫まで至らなかった。

今年度は反省が多い1年となったが、次年度の生徒のために在学生在が大豆をプランターに植えたり、学校をサポートする団体も高齢化により、次の世代に引き継ぐ様子が見られた。

次年度以降もコロナ禍の中でどのように地域の誇りや文化を若い世代に引き継いでいくか、地域や学校と連携して考えていきたい。



《畑への種まき in 識名小学校》

真和志地区地域活性委員会

趣 旨：自治公民館及び自治会相互の連絡提携や学習活動等を通し、真和志地区の教育力の向上を図る。
期 日：令和2年10月26日（月）
時 間：18:00～19:00
場 所：真和志支所地下1階 会議室
対 象：真和志地域の各自治会会長並び会員
受 講 料：無 料
定 員：無 し
参加延べ人数：19人
主 催：真和志地区地域活性委員会



《自治会長を中心とした参加者》

<組織構成>

委 員 会：真和志地区自治会（40自治会）
賛同する企業、関係機関等
委 員 長：西平 博人（真和志自治会長連絡協議会副会長）
副委員長：門下 長徳（県営繁多川高層住宅自治会会長）
副委員長：比嘉 恭一（有限会社白バラ洋菓子店社長）
事務局長：南 信乃介（那覇市繁多川公民館長）
監 事：辺野喜 英之（真和志支所支所長）
顧 問：田島 繁（真和志自治会長連絡協議会会長）
顧 問：玉井 栄良（安里2区自治会会長）
顧 問：照屋 満（那覇市中央公民館館長）
相 談 役：宮城 能彦（沖縄大学）
相 談 役：濱川 尚志（那覇市地域包括支援センター繁多川）
相 談 役：座間味 亮（株式会社赤マルソウ社長）



《オンラインを活用した新しい取組み》



《新聞社の取材も受けました》

【まとめ】

当委員会は研修、懇親を目的に活動していた前の団体から、地域課題にアグレッシブに対応していく為、組織編成を行い真和志支部の下部組織となった。役員は自治会長、地域企業、地域大学、包括支援センター、那覇市公民館、真和志支所といった多様なメンバーとなっており、委員の相互理解から始めようという観点で研修会を行った。

まず真和志地域の自治会の変遷を知ろうという事から、委員役員である沖縄大学 社会学教授 宮城先生より「自治会、真和志地域の歴史」の講座があり、次に企業と自治会の連携の可能性を考えるという事から株式会社赤マルソウの座間味社長より「企業が行う地域の取り組み」についてお話しいただいた。

最後は西平松島自治会長、宮城先生、座間味社長の三者で「自治会と企業の繋がりから見えてくる可能性」というテーマでフリートークを行い、とても有意義な研修となった。

本委員会へ那覇市社会福祉協議会の参加も新たに決定し、さらにこの内容はネット配信され、ネットから那覇市職員や横浜の企業社長などの参加があり、地域発信の新しい事例となった。

まーみあし
はんだがわお正月豆遊び

趣 旨：屋外でのお正月遊び会を通じて、繁多川地域の伝統である在来大豆と豆腐づくりについて楽しく伝承できる機会とする。昔の道具を使った水運び、脱穀体験、豆を用いた遊び等、感染症対策を講じながら楽しめる内容とし、担い手である高齢者と子育て世代、子どもたちの交流と、地域文化に触れることを目的とする。

期 間：令和3年1月4日（月） 時 間：10:00～12:00
場 所：那覇市繁多川公民館 広場 対 象：那覇市在住・在勤・在学の方
受講料：無料 定 員：なし
参加延べ人数：111名 共 催：繁多川自治会

★★ プログラム ★★

- オープニング：「豆腐行進曲」を踊ろう！
- 競技①：マメマメ移し大会
- 競技②：ターゲット水運び大会
- 体 験：クルマンボウ打ち、ミージョーキ、繁多川かるたを作ろう



《上手に豆をつかめるかな》



《親子で一緒にかかるた作り》



《達人の技を拝見》



《昔はこうやって脱穀》



《水道がない時代を体験》

【参加者の声】

「マメマメ移しをまたやりたい」や「ターゲットが重くて揺れるので難しかった」等、沢山の声が聞かれた。

【まとめ】

新型コロナの影響により、恒例のもちつきの代わりに知恵を絞って企画したイベントであったが、地域の高齢者、家族連れ、学童グループなどが訪れ、繁多川の地域文化に触れながら世代を超えて交流することができた。

特にクルマンボウやミージョーキといった昔の道具体験では、地域の高齢者が先生となって子どもや親世代に指導して下さった。子どもたちは道具を使いこなすことの難しさを体感するとともに、熟練の技の素晴らしさや、道具に込められた知恵に触れる機会となった。繁多川かるた製作では、地域の特徴や魅力について考えるきっかけとなり、親子や友人同士で地域のことを語り合いながら製作する姿もみられた。

識名園友遊会

趣 旨：真和志地域の誇りである世界遺産・国指定特別名勝「識名園」を会場として活用し、青少年団体等における伝統文化の継承と新しい文化の創造、青少年の健全育成と地域の活性化および文化財保護の啓発を図ることを目的として開催する。

期 間：令和3年2月23日（火）

時 間：9：00～12：00

場 所：世界遺産特別名勝「識名園」 ～ 識名馬場 ～ ヒジガービラ ～ 首里城 継世門

対 象：識名園友遊会実行委員会及び関係者

受 講 料：無料 申込人数：20人（うち受講決定数16人） 参加延べ人数：16人

講 師：古塚 達朗 氏（琉球歴史・文化話半学会 会長）

主 催：識名園友遊会実行委員会



《講師 古塚達朗氏》



《スタートは識名園》



《戦時中の県庁警察部壕付近》



《日頃歩かない道をいきます》



《ヒジ川橋にて》



《勾配のあるヒジガービラ》



《御茶屋御殿の石造獅子》



《ゴールの首里城 継世門》



《欠席者の為に動画撮影》

【まとめ】

前年度は首里城焼失という大きな出来事があったが、今年は新型コロナウイルス感染拡大という困難が識名園友遊会の大きな壁となった。

まず前年度同様のイベントとしての識名園友遊会の開催は困難と実行委員会で決定。今年度は、実行委員にむけた研修会を行った。

研修会は「識名園から首里城までの歴史史跡を研修し、識名園の価値を再確認する」という観点で行い、古塚達朗氏を講師に招き識名園からスタート。首里城に至るまでの歴史史跡をみんなで歩いて学び、識名園の歴史的価値を再確認した。

今回の研修会は動画でも撮影しており、参加できなかった皆様へ閲覧できるよう予定している。

ちいさなロビー展「シェアマーケット」

趣 旨：新型コロナウイルスの影響により生活が困窮している方の支援や孤立防止を目的として、食品や日用品の持ち寄り、交換を行う。また、真和志地域内でもキャラバンとして出張開催する。

期 間：令和2年6月～令和3年3月

時 間：9：00～17：00

場 所：那覇市繁多川公民館 2階ロビー

対 象：那覇市在住・在勤 参加延べ人数：302人

協 力：繁多川自治会、那覇市地域包括支援センター繁多川、那覇市社会福祉協議会
ビブリオサポートいずみ

実施日	場所	内容	来場者数
令和2年 6月17日（水） ～ 令和3年 3月31日（水）	繁多川公民館 2階ロビー	・食品、日用品の物々交換 ・雑貨等のバザー	122人
11月15日（日） 9：00～ 11：30	県営繁多川 高層住宅	【共催】県営繁多川高層住宅自治会 ・食品、日用品の物々交換 ・雑貨等のバザー ・包括支援センター繁多川による高齢者支援窓口 ・ブックシェアリング ・障がい者就労支援団体によるバザー	95人
12月19日（土） 12：00～ 15：00	栄町市場 東口通り	【主催】ウェルカム栄町市場実行委員会 食品、日用品の物々交換コーナーとして出店	50人
令和3年 3月19日（金） 14：00～ 16：00	識名3丁目 空き地	【共催】那覇市地域包括支援センター繁多川 ・食品、日用品の物々交換 ・雑貨等のバザー ・包括支援センター繁多川による高齢者支援窓口 ・ブックシェアリング ・識名交番による特殊詐欺防止の啓発活動	35人

【まとめ】

コロナ禍において実施を見送る講座や事業が多い中、1人の地域住民の声で始まったシェアマーケットはまさしく地域の困っている方、孤立しがちな方々のつながるきっかけとなる事業だった。秋以降は地域に出て出張開催を行い、より多くの方との関わりの中で顔を合わせて交流することの大切さと同時にコロナ禍でもできること、地域にとって必要なことを再認識することができた。次年度以降も地域の自治会や団体と協力しながら真和志地域へ出張開催を広げていきたい。



ちいさなロビー展「ロビーリノベーションプロジェクト2020」

趣 旨：琉球大学建築学コースの学生有志と沖縄工業高校建築学科の協力のもと、繫多川公民館2階ロビーを、いつでも、誰でも利用しやすい空間としてリノベーションを行い、ロビー機能（地域の支援窓口、展示、キッズスペース、ワーキングスペース、本の貸し出し等）の充実を図る。

期 間：令和2年8月～令和3年3月

場 所：那覇市繫多川公民館 2階ロビー 対象：那覇市在住・在勤

協 力：琉球大学工学部工学科建築学コース、沖縄県立沖縄工業高等学校建築学科

参加延べ人数：65人

実施日	場所	内容	参加人数
8月下旬	—	琉球大学工学部工学科建築学コースの学生に向けて「繫多川リノベーションプロジェクト2020」のメンバー募集を開始	—
9月11日（金） 13:00～15:00	繫多川公民館 2階ロビー	第1回打合せ ・メンバー顔合わせ、自己紹介 ・利用者ヒアリングについて ・プロジェクト説明 ・今後の進め方について	12人
9月29日（火） 12:00～15:00 9月30日（水） 14:00～16:00 10月7日（水） 12:00～15:00	繫多川公民館 2階ロビー	・琉球大学学生による公民館利用者へのヒアリング調査	13人
10月10日（土） 10:00～12:00	繫多川公民館 実習室	第2回打合せ ・ヒアリング内容の発表 ・ゾーンニング案の作成に向けて ・今後の目標の整理	10人
11月21日（土） 10:00～12:00	繫多川公民館 研修室1	第3回打合せ・中間発表 ・Aチーム ゾーンニング案発表 ・Bチーム ゾーンニング案発表 ・最終案に向けて今後の進め方について	12人
12月20日（日） 10:00～12:00	繫多川公民館 研修室1	第4回打合せ・最終発表 ・最終ゾーンニングプランの発表	10人
令和3年 1月18日（月） 16:30～18:00	沖縄県立 沖縄工業高等学校 建築棟	第5回打合せ ・沖縄工業高校に向けて最終プランの説明 ・家具の製作スケジュールについて	8人
2月～3月下旬	沖縄県立沖縄工業 高等学校	・沖縄工業高校建築学科の先生、生徒による家具の製作	—

【まとめ】

これまで公民館ロビーについて、「もっと色々な世代が利用しやすい空間がいい」など利用者アンケートからも様々な声が聞こえていたため、今年度から新たな取り組みとしてロビーのリノベーションを開始することとなった。琉球大学学生有志によるロビーのリノベーション案は、利用者の声を反映しながらも機能性の高いアイデアや工夫が盛り込まれていてとても素晴らしいものとなった。次年度以降は、沖縄工業高等学校と連携して、琉球大学学生のプランをもとに本格的な製作に入っていく。



《模型を見ながら説明》



《中間発表のようす》



《完成イメージ模型》



《意見を整理》

いどばたごはん会

趣 旨：地域で支援が必要な子ども・家庭に対し、学校や自治会、民生委員児童委員との連携で月に1回の夕ご飯をつくり仲間と過ごすことで、安心できる仲間（大人や友達）と出会えて居場所となり、孤立解消を目的とするとともに地域の資源を有効活用し持続可能な仕組み作りを構築し自立した運営ができるようにする。

日 時：令和2年4月～令和3年3月30日（毎週火曜日 放課後）

場 所：那覇市繁多川公民館 事務所・屋上

対 象：那覇市在住・在勤

受 講 料：無料

参加延べ人数：130名

<3月のある週の活動スケジュール>

回	月 日	内 容	備 考
1	3月15日（月）	支援者（民生委員児童委員、家庭教育支援員、生徒指導教諭他）に連絡して、食材の受取り人数を調べる。	
2	3月16日（火）	食材吟味／地域のパン屋さんにパンの受取りに行く。 地域の豆腐屋さんからゆし豆腐が届く。 生徒たちが放課後、公民館来館で食材受取りや屋上の畑の整備や収穫の手伝いを行う。	体温体調チェック、アルコール消毒の徹底。

【まとめ】

平成28年度から持続可能な仕組み作りを視野に入れながら、那覇市でこどもの居場所づくりを行っているkukuluと連携し、kukuluメンバーのアウトリーチの場所としても活用し子ども達や家庭の孤立を「食」を通して地域で継続的サポートができるよう地域の公民館を拠点に展開中であったが、令和2年3月から新型コロナウイルス感染症防止のための学校の休校、公民館の休館で月1回の調理実習と飲食ができなくなり休止となる。

関係性の希薄化や途切れることを防ぎたく、なんらかの方法はないのかと家庭教育支援員や生徒指導教諭と相談し、地域のパン屋さんや豆腐屋さんとも調整をして、11月から食材手渡しするようにした。

特にコロナ禍で休校が続く中、社会的に孤立している家庭（福祉・教育のサポートが十分でない、機能しづらい状況が原因で生活保護、引きこもり、不登校となっている）に対し、主任児童員や見守り支援員生徒指導教諭の協力のもと、支援を必要としていて見えにくい存在へのアプローチも食材を毎週火曜日に渡すことででき、月1回の関わりより親しくなれた気がする。中3の生徒には高校合格の状況を尋ねたり、お手伝いがあれば連絡し、休みの友達の様子を聞いたりする。卒業後も繋がっていたいので連絡先を聞くことができ、直接つながることもできている成果は大きいと感じている。また、食材や寄付金が地域の方々や公民館利用者より、毎回届き持続可能な仕組みになり「いどばたごはん会プロジェクト」に対する協力体制が確立してきていることは、社会教育施設である「公民館」の得意性の具現化と考える。



《畑作業》



《 食 材 提 供 》



〔２〕学社融合事業

職場体験受入れ&お仕事先生プロジェクト

趣 旨：学生達に世代の違う人々の交流を行い、コミュニケーション能力を高め、社会対応能力を身につける。又、働くとは何か？体験談を話す事によって、個人の視野を広げる事により成長や自信を深め、未来を担う人材育成と青年の活躍の場が増え、地域の活性化に寄与する。

期 間：令和2年7月1日（水）～12月11日（金）

時 間：授業時間帯に実施

場 所：那覇市繫多川公民館及び各中学校

対 象：那覇市立小中学校／沖縄県立・私立高校
県内外の大学／教育関係者

受 講 料：無料 定員：なし 参加延べ人数：905人



《講話いただいた講師陣》

★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	参加人数
6月4日(木)、11日(木) 18日(木)	那覇市立識名小学校 沖縄戦と将来の沖縄 講師：波平 元維 氏	327人
7月1日(水)	那覇市立石田中学校1学年 各クラス1名の職業講話	148人
7月3日(金)	那覇市立寄宮中学校2学年 各講師が20分×2クラス 講師職種 プロデューサー、歌手・女優、地方公務員、ランニングクラブ経営、那覇市包括支援センター、社会福祉士、保育士等	233人
12月11日(金)	那覇市立寄宮中学校1学年 各講師が20分×2クラス	197人
※職場体験受入れについては、新型コロナの影響により、中止となりました。		

【実習生の感想】

- ・今日、来てくれた先生も、最初からなんでもできたわけじゃないことがわかった。人生はコツコツ努力して、チャレンジして自分ができてくる。
- ・うまくできた時は自分を褒めて、自分と向き合って、がんばれる言葉を見つけて、仕事を頑張っていてとてもすごいなと思いました。
- ・また自分が仕事をした時に、会えたらいいなと思いました。ありがとうございました。

【まとめ】

中学校の先生方からは、コロナ禍の中、生徒も目標となる大会やイベントが中止になっていることから、様々な職業人との出会いで自分なりの目標と向き合う時間にしたい、と依頼があった。

講師の方々も、一所懸命に生徒と向き合い貴重なお話をさせていただくことができた。講師からも、授業終了後に職場近くで担当した生徒から声を掛けられ、「とても嬉しかった。地域に支えられて私たちも働いていると実感することができた」と連絡があった。生徒にとっても先を見通せない状況の中、働く大人たちが試行錯誤し向き合う姿は、一番のキャリア教育だったのではと感じた。

今後も、学校と地域企業とを結び、生徒のチャレンジを後押しし未来の担い手を育む取組が重要になりそう。近隣の中学校に呼びかけてできるやり方で継続したい。



《講話に聞き入る寄宮中学校生徒》



《多くの講師が協力》

〔3〕プロポーザル事業

コミュニティ支援 『地域計画 教育部』

放課後子ども総合プラン会議

趣 旨：「地域の子どもは地域で育む」をスローガンに、識名小校区のすべての児童が放課後を安全・安心に過ごせるように、学校・地域・行政が連携して取り組むことを目指し、現状把握や事業の検討・実施などを包括的に行えるような議論の場を設ける。

期 間：令和2年7月2日（木）、11月19日（木）、令和3年2月4日（木） 全3回

時 間：10:00～12:00

場 所：那覇市繁多川公民館 研修室

対 象：識名小学校校長、識名小PTSA、民生委員児童委員、子ども寄り添い主任支援員（学校教育部教育相談課）、家庭教育支援員、識名児童クラブ、童夢児童クラブ、いどばた学童クラブ、識名児童館、繁多川公民館、繁多川自治会、識名自治会、識名1丁目自治会、那覇市こども政策課
那覇市生涯学習課

参加延べ人数：48人



《放課後子ども総合プラン会議》

★★ 実施内容 ★★

日 時	内 容	参加人数
7月 2日（木）	放課後の現状共有（特にコロナ休校中の様子）・事業計画	25人
11月19日（木）	放課後の現状共有・事業進捗	16人
令和3年 2月 4日（木）	令和2年度の振り返り、ディスカッション	7人

【参加者の声】

このように同じ地域で子どもたちに関わる関係者が一堂に会することが貴重であり、大変意義深い。

【まとめ】

今年度は、コロナ感染拡大により、識名小校区の子どもたちの放課後の過ごし方が大きく影響を受けた。

学校が長期間臨時休校になったことで、家庭で過ごす時間が増え、ゲームをして過ごす子どもが増えている。共働き家庭やひとり親家庭では、休校中に子どもだけで留守番せざるを得ない状況が続き、子どもだけで留守番できるのであれば、児童クラブを退所するケースも出てきている。学校だけでなく児童クラブでも行事の中止や活動の制限が続き、子どもたちがのびのびと過ごす時間、特に外遊びの時間が減っていることなど、子どもたちへの影響が懸念される。

コロナ禍では、困りごとを抱えている家庭からのSOSをキャッチするのも難しく、地域内で支援者と家庭が気軽に接点を持つことのできる仕組みや取り組みが必要とされている。

総合プラン会議内でLINEグループも立ち上げたので、関係者同士のコミュニケーションを円滑にすることから始めて、地域全体で子どもたちを育んでいける仕組みづくりに継続的に取り組んでいきたい。

しきな小放課後子ども教室

趣 旨：放課後の子どもたちが安心して過ごせる地域の拠点としての居場所づくりと公民館利用者または地域のすぐりむんによる企画・実施により、やりがいや生きがいにつながるとともに地域の子どもたちが地域とつながり「顔の見える関係性」の確立や指導者である、すぐりむんの後継者育成や新たな人材発掘を目指して勉強会等を行う。

期 間：令和2年7月13日（月）～令和3年2月28日（日）
時 間：毎週月曜（ドッジボール） 15:00～16:00
 毎週水曜（ありんくりん） 16:30～17:30
 第1, 3木曜（ペタンク） 16:30～17:30

場 所：那覇市繫多川公民館／那覇市立識名小学校運動場

対 象：識名小学校1～6年生

受 講 料：無料（但し、ドッジボール希望者は保険料800円を個人負担）

定 員：なし

参加延べ人数：387人（登録児童数50人）

指 導 者：繫多川すぐりむん（禰覇京子、阿波連栄行、佐久本嗣生、柴田一郎）、板良敷朝栄）

ドッジボール指導（續 安男）

協 力：いどばた学童クラブ、童夢児童クラブ、識名児童クラブ



《ドッジボール》

★★ 実施プログラムより一部抜粋 ★★

活動日	活動内容	参加人数	活動日	活動内容	参加人数
7月13日（月）	ドッジボール	56人	10月21日（水）	ありんくりん （パッチンカエル）	9人
7月15日（水）	ありんくりん （昆虫をつくろう）	37人	10月26日（月）	ドッジボール	24人
7月20日（月）	ドッジボール	18人	11月 2日（月）	ドッジボール	25人
7月22日（水）	ありんくりん （卓球/広場遊び）	10人	11月 4日（水）	ありんくりん （広場遊び）	4人
9月23日（水）	ありんくりん （卓球）	3人	11月 9日（月）	ドッジボール	25人
9月28日（月）	ドッジボール	23人	11月11日（水）	ありんくりん （インディアカ）	3人
9月30日（水）	ありんくりん （卓球）	6人	11月16日（月）	ドッジボール	19人
10月 1日（木）	ペタンク	10人	11月18日（水）	ありんくりん （紙ヒコーキ大会）	8人

【まとめ】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動期間が短くなった。プログラムにドッジボールを追加したことで高学年の参加もあり、全体的な学年層が広がった。

プログラムによって、参加人数のバラつきがあったのでニーズ調査を兼ねたアンケートを実施し、「ドッジボールが一番楽しかった」「来年もドッジボールに参加したい」などの声が上がった。

また、「放課後子ども教室自体知らなかった」と答える人が半数以上いた。次年度はアンケート結果をふまえた上で、企画していきたい。

プレーパーク

趣 旨：「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、身近な自然の素材や廃材、道具を使って子どもたちが自分で遊びを創り出すことのできる遊び場を提供し、子どもたちの自主性や冒険心を育むことを目指す。同時に、親を含めた地域の幅広い世代が集い交流しながら互いに技術や知恵を学びあったり、情報交換して地域のつながりを深める場とする。また、継続していくことで、地域で世代を超えた顔見知りが増え、お互いに見守りあう意識を持てるようになり、地域の安心安全につなげる。

期 間：令和2年6月6日（土）～令和3年3月13日（土）

※4月、5月、8月、9月は新型コロナの影響により、開催中止

時 間：10:00～12:00（3月は13:00～16:00）

場 所：那覇市繁多川公民館 広場、大石公園、識名児童館

対 象：乳幼児から高齢者まで、どなたでも

受講料：無料

定 員：なし 参加延べ人数：596人

共 催：識名小放課後子ども総合プラン会議、識名児童館



《ロープ渡り》

★★ 実施内容 ★★

日 時	会 場	内 容	参加人数
6月 6日（土）	繁多川公民館 広場	泥んこ遊び、木工、ロープ遊び、昔遊び等	79人
7月 4日（土）	大石公園	泥んこ遊び、木工、ロープ遊び、昔遊び等	92人
10月 3日（土）	繁多川公民館 広場	泥んこ遊び、木工、ロープ遊び、昔遊び等	61人
11月14日（土）	繁多川公民館 広場	泥んこ遊び、木工、ロープ遊び、昔遊び等	52人
12月 5日（土）	大石公園	泥んこ遊び、木工、ロープ遊び、昔遊び等	59人
令和3年 1月 9日（土）	繁多川公民館 広場	たき火でムーチー作り、ビー玉焼き、木工	94人
2月13日（土）	繁多川公民館 広場	ビニール袋熱気球、木工、ロープ遊び等	49人
3月13日（土）	識名児童館	プールづくり、たき火遊び、ロープ遊び等	110人

【参加者の声】

（大 人）・TVやゲームにかたよってしまう子どもの遊びも、汚れながら土や木にふれて楽しく遊ぶことに集中できたプレーパークはとても良い時間でした。

- ・野外でのびのびと自由に遊べる場所はとても有難いです。
- ・子どもたちが自由に遊べて、昔の子ども時代を思い出します。普段、危ないと親が止めてしまいがちな体験も出来て良いです。

（子ども）・いつもはあんまり人と関わらないけど、このプレーパークを通して沢山のひと々と関わっておしゃべりできて楽しかった。

- ・すべり台でロープを張って、自由に遊ぶところが楽しかった。

【まとめ】

今年度は大石公園と識名児童館の2か所で出張プレーパークを実現することができ、子どもたちの身近な場所に遊び場を出張していくことの意義を実感した。また、12月より小学校高学年の子どもたちを企画側に招き入れて、一緒に「面白そうなこと」を考えて実行する「子ども運営委員（子ども0丁目）」を結成した。コロナ禍で子どもたちの活動が制限される中、外遊びの機会を提供することの必要性を強く感じている。



《児童館の砂場でプール作り》

コミュニティ支援 『地域計画 福祉・防災部』

住んで良かった繁多川大作戦

趣 旨：少子高齢化の中、財政の厳しさも増し、公共が担い続けられる事業も縮小傾向にある。高齢者の孤立、孤独死、多くの課題を抱える家庭、働いても働いても暮らしが改善しないワーキングプア、県民の30%が貧困という現状の中、地域ネットワークが教育や福祉・防災部を構成し自らの手で、できる課題解決に寄与する。

期 間：令和2年4月～令和3年3月

時 間：実施内容により異なる

場 所：繁多川公民館およびその周辺

対 象：那覇市在住・在勤・在学及び興味のある方

受 講 料：無料

定 員：なし

参加延べ人数：380人（視聴回数1533回）

共 催：那覇市地域包括支援センター繁多川

協 力：繁多川自治会、県営繁多川高層住宅自治会
那覇市防災危機管理課、琉球大学清水研究室



《三宝邸防災懇談会》

★★ 実施プログラムより一部抜粋 ★★

日付	内 容	参加人数 (視聴回数)
6月	三宝邸会議（三宝邸の活用・民間避難所について）	8人
7月	コロナ禍のアンケート （公民館／包括支援センター利用者対象にアンケートの実施）	70人
	地域情報発信サポート（「ちむぐるに乾杯！」配信スタート）	（1053回）
	住んでよかったご近所チーム（民間避難所周知／ゆくいゆんたく三宝邸）	96人
9月	繁多川の20代から40代と話すwith コロナ（情報交換会）	18人
10月	高齢者が安心して暮らし続ける地域づくり（講演会）	30人 （480回）
11月	シェアマーケットキャラバン・県営繁多川高層住宅 （物々交換・フードドライブ・バザー）	95人
12月	三宝邸防災懇談会①（民間防災拠点運営について）	15人
令和3年 1月	三宝邸防災懇談会②（民間防災拠点運営について）	12人
3月	地域計画策定会議（地域計画評価・次年度計画検討）	36人

【まとめ】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初の計画通りに実施することはできなかったが形や手法を変え、計画に沿った実施をすることができた。

コロナ禍で今まで見えてこなかった問題が見え、改めて実施している内容の重要性を認識することができた。高齢者の集いの場を感染対策のため中止した際には「開催しないなんてさびしい」「みんなとお話したかった」などの声上がり、この集まりが参加者の中で重要な場として認識されていることもわかった。

次年度以降も、コロナ禍をふまえた上でアクションプランに沿って実施できるようにしていきたい。

コミュニティ支援 『グローバル公民館』

「エジプトと沖縄でグローバルミーティング」

趣 旨：「アラブの春」後の民主化が起こったエジプトで、日本の民主化を支えた公民館設立に貢献し、公民館の活用の幅を広げ社会教育を促進する。また、合同講座グローバル公民館を開講し、相互のまなびあいを通してグローバル人材の育成とする。

期 間：下記プログラム参照

場 所：繫多川公民館およびその周辺、エジプトカイロ近郊

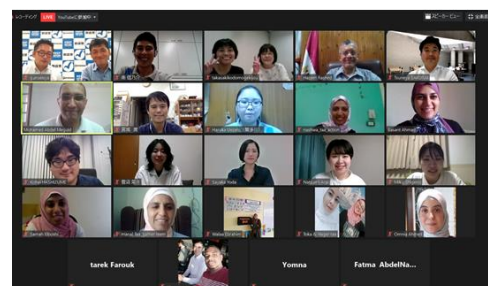
対 象：那覇市在住・在勤及び興味関心のある方 受講料：無料 参加延べ人数：592人

★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	講 師 / 備 考
6月26日(金)	「現代の公民館の現場からつどう・学ぶ・つながりから考える」	講師：村上 英己 氏 (全国公民館連合会事務局次長)
7月18日(土)	「エジプトと日本の比較教育について」	講師：エルサムニ イブラヒム 氏 (沖縄国際大学非常勤講師)
8月8日(土) ～10月9日(金) (全5回)	「地域づくりの視点から見た公民館」他	講師：櫻井 常矢 氏 (高崎経済大学地域政策学部 地域づくり学科教授) 宮城 潤 氏 (那覇市若狭公民館 館長)
9月12日(土) ～10月24日(土) (全3回)	岡山大学「地域で進めるESD 持続可能な社会づくりと教師教育」他	共催：岡山大学ESD推進室 講師：藤井 浩樹 氏、柴川 弘子 氏 (岡山大学大学院教育学研究科教授) 大安 喜一 氏 (ユネスコ・アジア文化センター教育協力部長)
10月3日(土)	「沖縄の100年以上続く、地域の拠点 共同売店から学ぶ」	講師：山田 沙紀 氏、小林 未歩 氏 (愛と希望の共同売店プロジェクト)
12月11日(金) ～ 令和3年 1月29日(金) (全3回)	「日本の社会基盤と公民館の果たした役割」他	講師：牧野 篤 氏 (東京大学大学院教育学研究科 教授)
1月9日(土)	「ソーシャル・アントレプレナーと公民館」	講師：西山 佳孝 氏 (株式会社タウンキッチン・取締役)
2月6日(土) (他全4回)	「コロナ禍でのライフスタイルと仕事」他	コーディネーター：南 信乃介 (那覇市繫多川公民館 館長)

【まとめ】

文部科学省の日本型教育の海外展開推進事業の一環としてオンライン講座を実施した。公民館を運営や利活用する人材育成として日本の公民館への知識を深め、エジプトらしい社会教育のあり方を模索した。全18回のオンライン講座に海外の皆さんの熱心なディスカッションから私たちも公民館の可能性に気づかされた。次年度は、JICA草の根事業とも連携して引き続き、グローバルな学習機会をつくりたい。



7 公民館まつり

第15回 繁多川公民館まつり『利用団体成果発表』

趣 旨：新型コロナの影響により、例年通りの成果発表の開催ができない為、日頃の活動を動画撮影し、ロビーでの上映や YouTube 配信を行い、サークル活動を知ってもらう機会とする。

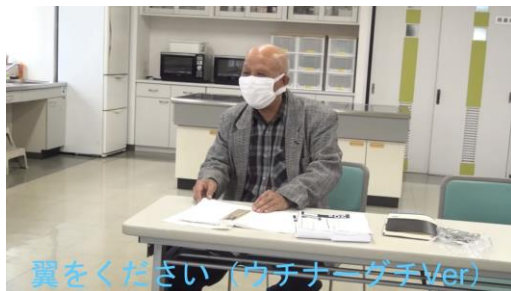
期 間：令和2年11月～令和3年3月

時 間：サークルの活動日

場 所：繁多川公民館

主 催：繁多川公民館利用団体連絡会

参加延べ人数：約213人



《ハンタガー島くとうば会》



《ロビー上映》



《繁多川太鼓同好会》



《松城書道会》



《自彊術健康体操》



《繁多川吟友会》

【まとめ】

年に一度の利用団体成果発表の場だったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け通常開催を見送った。

その代わりとして、普段の活動風景を動画に撮り上映することでサークルの発表の場づくりや活動紹介につながった。普段、参加しないサークルの撮影もすることができ、幅広い参加につながった。また、ロビーで上映することでサークル同士の交流にもつながった。

動画撮影は日程調整、撮影、編集と大変な面も多々あったが、サークルからは「ほかのサークルの様子を見ることができてよかった」などの声が上がリ、実施してよかったと思う。

次年度以降もどの様に開催していくのか、利用団体の皆さんと模索していきたい。

8 新型コロナウイルス感染症拡大防止を鑑み中止になった事業

事業名及び講座名	開催予定月	定員（人）	時間×回数
市民講座 『真地を知ろう！』	R3年1月	20	2時間×3回
高齢者学級 『琉歌であたまの体操』	R2年9月	10	2時間×3回
少年教室 『プログラミングロボット教室』	R3年3月	30	2時間×4回
地域連携事業 『真和志地区スポレク大会』	R3年2月	100	3時間×1回
プロポーザル事業 『防災まち歩き避難訓練』	R2年9月	20	2時間×3回

【繁多川公民館・館長より】

コロナ禍でのリスクの高い高齢者を対象にしている場合は、感染状況を鑑み中止とした。また県外講師での実施予定であった講座も県内での代替講師がおらず中止の判断とした。
次年度に引き続き、コロナ対策をした上で開催できるやり方を工夫し、ニーズがあれば開催を検討する。

